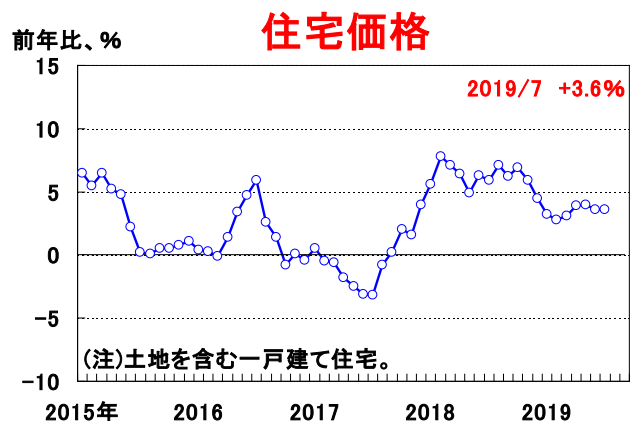
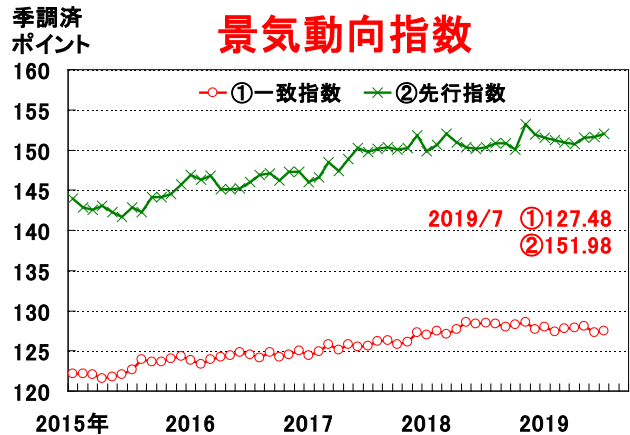
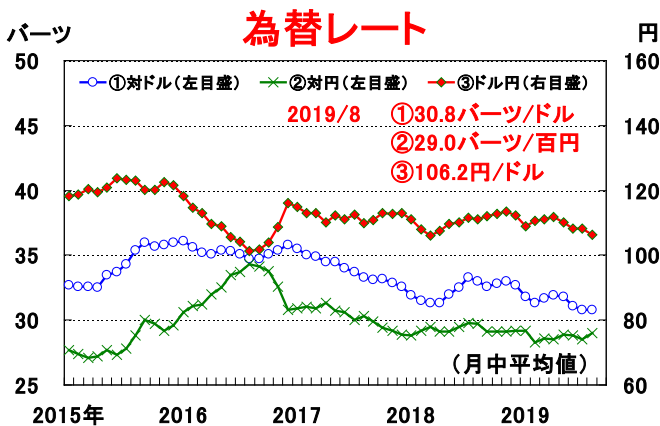
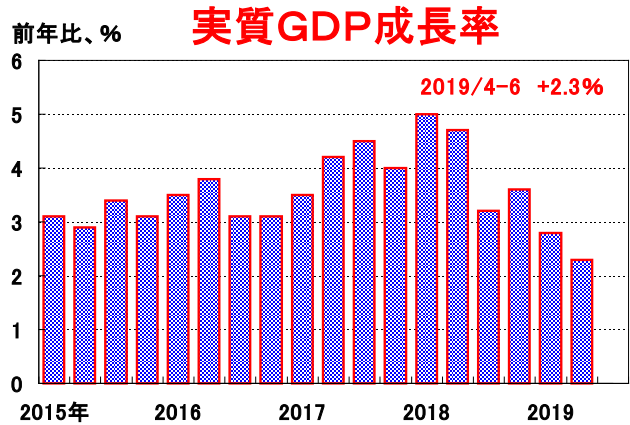
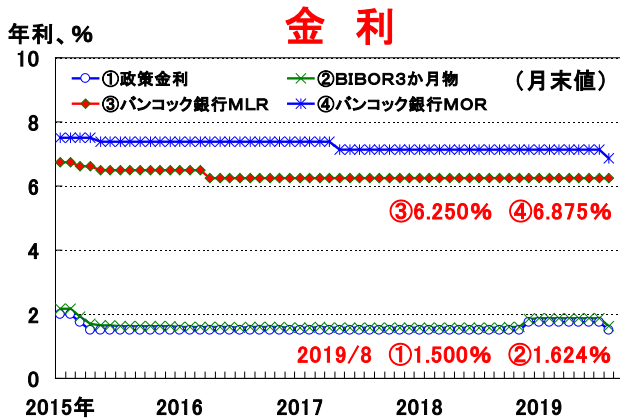


グラフで見るタイ経済 2019年9月号(No. 123)

2019年4～6月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+2.3%(前期は同+2.8%)と2014年7～9月期以来の低い伸びとなった。個人消費(1～3月期:前年比+4.9%→4～6月期:同+4.4%)と総固定資本形成(1～3月期:同+3.2%→4～6月期:同+2.0%)、政府支出(1～3月期:同+3.4%→4～6月期:同+1.1%)がいずれも減速した。直近の月次指標をみると、8月の企業景況指数は48.6(中立水準は50)と前月の49.1から低下し、企業マインドも一段と弱含んでいる。内訳をみると、「生産」が2016年8月以来の低水準にとどまった。



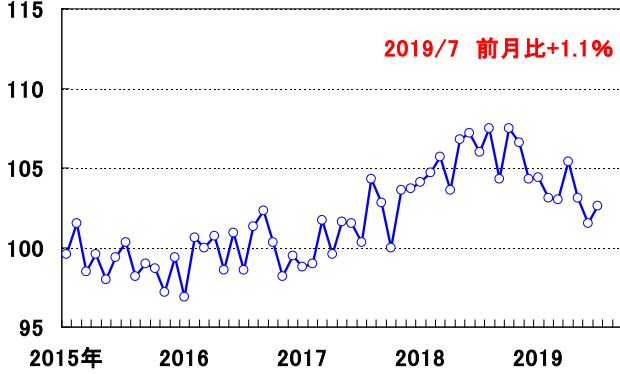
【今月のトピック:中銀が予想外の利下げを実施】 タイ中央銀行は8月7日、金融政策決定会合で政策金利を1.75%から1.50%に引き下げた。今回の利下げは、4年4か月ぶりとなる。最近のタイ経済は、世界経済の減速に加え、パーツ相場の上昇により輸出や外国人観光客が弱い動きとなっている。今回の利下げの狙いは、当初の予想よりも経済成長が下振れしつつある状況に対し、景気を下支えすることにある。現在、米中通商摩擦は一段と激化しつつある。今後も景気の減速が続く場合、産業界から追加の利下げや財政テコ入れ策を求める声が強まりそうである。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

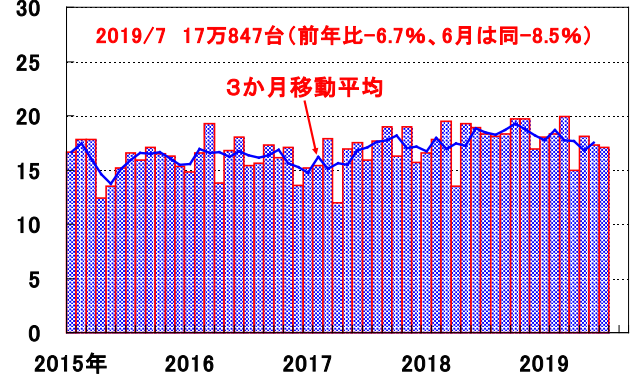
季調済
2011年=100

工業生産指数

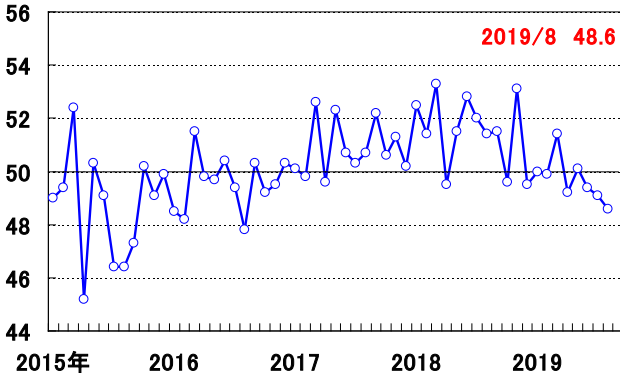


万台

自動車生産台数

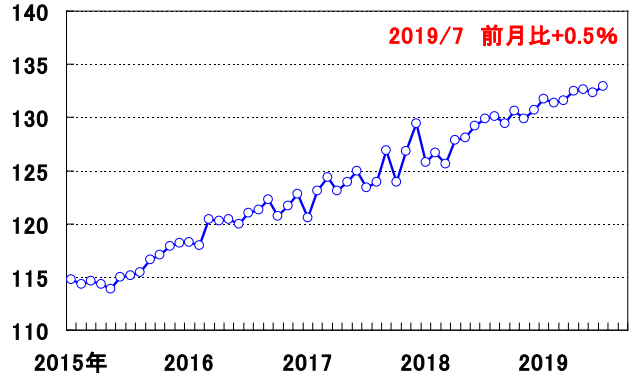


中立水準=50 企業景況指数(BSI)



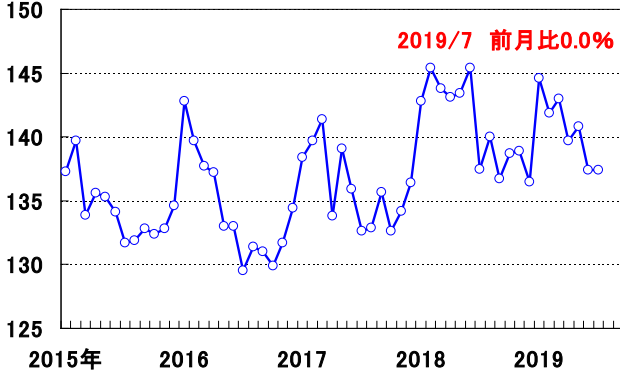
季調済
2000年=100

個人消費指数



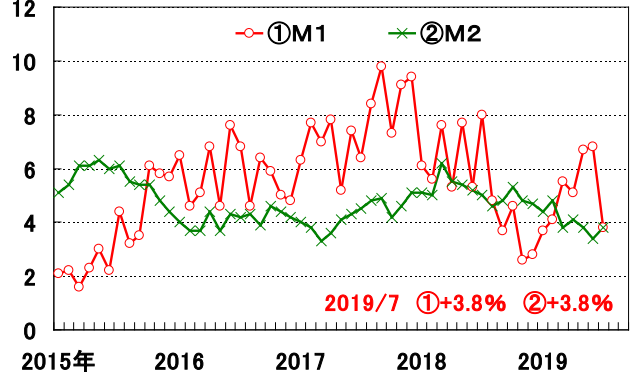
季調済
2010年=100

民間投資指数



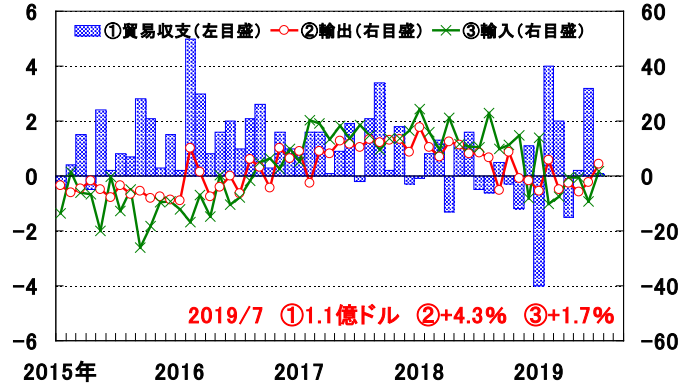
前年比、%

マネーサプライ



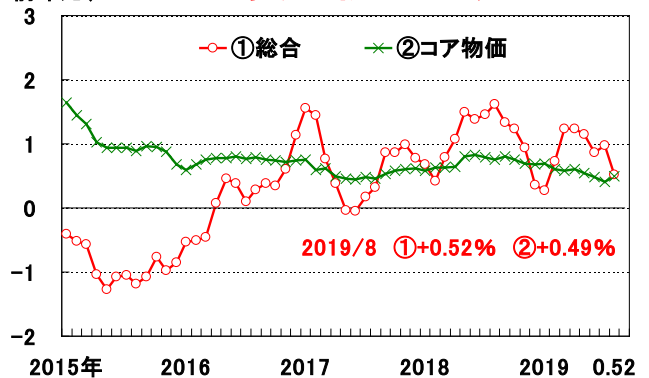
10億ドル

貿易収支



前年比、%

消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (FTI)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。